

農業体験における再来訪促進要因に関する調査

Investigation on Factors Promoting Repeat Visits in Agricultural Experiences

新川晴紀[†]松下 光範[†]Haruki Shinkawa[†]Mitsunori Matsushita[†]

1 はじめに

日本の中山間地域における農地の多くが家族経営の農家によって管理されており、収穫等の繁忙期には普段農業に従事していない世帯員やアルバイト等の雇用者が農作業を行うことで継続的な農地管理が行われている。しかし、近年では少子化や都市部への人口流動の影響による地域全体の高齢化や地域内での繁忙期の重複などの理由から一時的な労働力の確保が困難になりつつあり、耕作放棄地の増加や食糧自給率の低下の原因の一端となっている。このように、農産業の安定性維持と持続的な発展を目的としたコミュニティ（農業コミュニティ）の拡大は喫緊の課題である。

この問題を支援する枠組みとして、収穫をはじめとする農家の仕事体験（以下、農業体験と記す）が注目されている [1]。現在の農業体験は主にレジャーの一環として催されており、農業に携わらない人が専門的な知識や経験を必要とせず、気軽に参加できるという特徴がある。農業体験への参加は、ともすればネガティブな印象をもたれやすい農作業への心理的なハードルを下げ、農業コミュニティへの新規参加者の促進への貢献が期待される。しかし、現在の農業体験は再来訪に繋がりにくいといった問題が存在する。これは、農業体験者が体験する作業内容が限定的となり、農業体験に対してモチベーションを維持できないことや再び訪れる誘因がないことに因ると考えられる。

そこで本研究では農業体験者の再来訪を促進するための端緒として、一度農業体験に参加した人（以下、一回参加者と記す）の再来訪の阻害要因、及び複数回農業体験に参加した人（以下、複数回参加者と記す）の再来訪の促進要因の明らかにすることを試みる。

2 調査

本研究では、農業体験への再来訪に影響する要因を明らかにするために、参加回数別に調査を行った。一般に、未経験者が農業体験に参加する意思決定の過程においては、体験者のブログや観光サイト等に掲載されている情報の収集を通して醸成される「楽しそう」や「やってみたい」といったポジティブな期待が参加の誘因になる。一度参加した農業体験者が再来訪をし

ない場合、期待した程の満足が得られなかった、もしくは一度で満足してしまったことで次の農業体験へのモチベーションが下がった、という仮説が想定される。こうした仮説に基づき、本研究では一回参加者における農業体験の満足度、及び体験の前後における意識の変化から再来訪の阻害要因を明らかにするためのアンケート調査を行った。また、複数回参加者のモチベーションの分析を通じて再来訪の促進要因を明らかにするためのインタビュー調査を行った。

まず、一回参加者におけるアンケート調査では、唐崎らによる農業体験に対する来訪者の参加モチベーションとインセンティブの分析結果 [2]、及び農林水産省の「食生活及び農林業体験に関する調査（令和 2 年 3 月）」[†]を参考に、農業体験前に期待する要素を (1) 農作業への興味、(2) 食に対する理解、(3) 子供の教育、(4) 農家との交流、(5) 知人との交流、(6) ボランティアとしての貢献、(7) 自然の満喫、(8) 特産品の購入、(9) 手軽で安価なレジャー、(10) 報酬としての農産物、の 10 項目に整理した。その上で、農業体験に興味があり未経験者である大阪府内の大学に在籍する大学生 6 名を対象に、アンケートで農業体験前に期待する要素を上記の 10 項目の中から複数の項目選択を許し、回答してもらった。その後、事前アンケートの回答者を対象に和歌山県紀伊田辺エリアで 5 時間程度みかんの収穫体験に取り組んでもらった。農業体験終了後に事前アンケートで回答された期待がどのように変化したのかを調べるために、15 分間の半構造化インタビューを実施し、回答を上記の農業体験に期待する要素 10 項目に照らしてラベル付けを行い計数した。併せて、農業体験の満足度を確認するために、(1) 総合的な満足度、(2) 体験の内容、(3) 交通アクセス、(4) 参加資金、(5) スタッフの対応、(6) 作業量、(7) 体験時間、の 7 項目について 5 段階評価のアンケートを実施した。また、農業体験の 2 か月後、回答者に対して再度農業体験に参加したいか意欲を確認し、「再来訪意欲あり」「再来訪意欲なし」で群分けをした。

次に、複数回参加者における調査では、社会人 4 名に 30 分間の半構造化インタビューを実施し、回答を前述した農業体験に期待する要素を 10 項目に照らし

関西大学大学院総合情報学研究所, Graduate School of Informatics, Kansai University (†)
〒 569-1095 大阪府高槻市霊仙寺町 2 丁目 1-1

[†] https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12278798/www.maff.go.jp/syokuiku/taiken_tyosa/r01/index.html

表 1: 満足度アンケートの結果

	再来訪意欲あり	再来訪意欲なし
総合的な満足度	5.00	4.33
体験の内容	5.00	4.67
交通アクセス	3.00	3.00
参加資金	4.67	3.67
スタッフの対応	5.00	4.67
作業量*	3.33	2.67
体験時間*	3.00	2.33

*: 多/5・適/3・少/1 とした

表 2: 農業体験の期待に関する比較

期待する要素	一回参加者 (人)				複数回参加者 (人)
	再来訪意欲あり		再来訪意欲なし		
	事前	事後	事前	事後	
(1) 農作業への興味	3	3	1	3	2
(2) 食に対する理解	0	3	0	0	3
(3) 子供の教育	0	0	0	0	0
(4) 農家との交流	2	3	0	3	3
(5) 知人との交流	1	2	3	3	2
(6) ボランティアとしての貢献	0	1	0	0	3
(7) 自然の満喫	1	0	1	1	4
(8) 特産品の購入	0	0	0	0	0
(9) 手軽で安価なレジャー	0	0	0	0	0
(10) 報酬としての農産物	0	0	0	0	2

てラベル付けを行い計数した。

3 調査結果

3.1 一回参加者の結果と考察

2 か月後の再来訪意欲を確認した結果、「再来訪意欲あり」「再来訪意欲なし」と回答した参加者は 3 名ずつであった。再来訪意欲の有無で群を分け、満足度アンケートの結果を表 1 に、農業体験に期待する要素の変化を表 2 の「一回参加者」欄に、各々示す。

表 1 の満足度アンケートの結果から、両群の総合的な満足度はともに高かったものの、再来訪意欲なし群の各項目は、再来訪意欲あり群に比べていずれもやや低い傾向にあることが観察された。この原因として、体験時間、及び作業量に不足を感じた可能性が示唆される。また、表 2 の一回参加者の「期待する要素」における「(2) 食に対する理解」については、両群とも事前には意識されていなかったが、再来訪意欲あり群では、3 名ともに意識の変化が確認された。一方、再来訪意欲なし群では意識の変化が確認されなかった。この結果から、食に対する理解が促進されないことが再来訪の阻害要因となった可能性がある。また、再来訪意欲なし群は「(1) 農作業への興味」や「(4) 農家との交流」に関して事前の期待は高くなかったものの、体験を通じて 3 名ともに意識の変化が確認されたことから、これらの項目は再来訪の促進要因ではないことが示唆される。

表 3: 複数回参加者の回答の例

ラベル	インタビュー回答
(2) 食に対する理解	農家の話を聞きながら、日の当たり方など木ごとに実のつき方が違うのを知ると、作物に個性があるようで愛おしく感じる
(4) 農家との交流	「元気か?」と定期的に気にかけてくれて参加しやすい
(5) 知人との交流	農業体験をきっかけに一緒に行く仲間ができた

3.2 複数回参加者の結果と考察

複数回参加者から農業体験への参加に対するモチベーションの結果を表 2 の「複数回参加者」欄に、インタビューの回答例を表 3 に、各々示す。

「(2) 食に対する理解」について「作物は個性があって愛おしい」という意見から、作物に対する愛着が再来訪の促進要因になる可能性が伺える。また、一回参加者においては「(4) 農家との交流」は再来訪の促進要因にはならないことを上述したが、複数回参加者からは「体験後に関わりのある農家に会いに行く」という意見が得られた。加えて、「(5) 知人との交流」では、一回参加者に対するインタビューでは確認できなかった「現地で仲良くなった人と体験をする」という意見が得られた。以上から、一回参加者に対して (1) 作物に愛着を持つ、(2) 現地における農家や知人との継続的な交流を図る、の 2 点を働きかけることが再来訪の促進に繋がると考えられる。

4 おわりに

本研究では、農業体験者の再来訪を目的として、一回参加者の再来訪の阻害要因、及び複数回参加者の再来訪の促進要因を明らかにするために、農業体験の満足度及び、体験前後の意識の変化に着目した調査を行った。その結果、体験時間・作業量の不足、及び食に対する理解が得られないことが再来訪の阻害要因となることが示唆された。一方、作物への愛着、及び現地における人との継続的交流が複数回参加者だけが知り得る農業体験の魅力であり、再来訪の促進要因になる可能性がある。

謝辞

研究の実施にあたり、株式会社日向屋、辻田直樹氏、田中和広氏、白水菜々重氏の協力を得た。記して謝意を表す。

参考文献

- [1] 下平 佳江, 加藤 麻樹: 農業体験学習に参加する大学生と受入れ農家のニーズの違い, 長野県短期大学紀要, Vol.64, pp.61-70 (2009).
- [2] 唐崎 卓也, 安中 誠司, 木下 勇: 農業・農村体験活動関係者の参加モチベーションとインセンティブ, ランドスケープ研究, Vol.72, No.5, pp. 835-840 (2009).